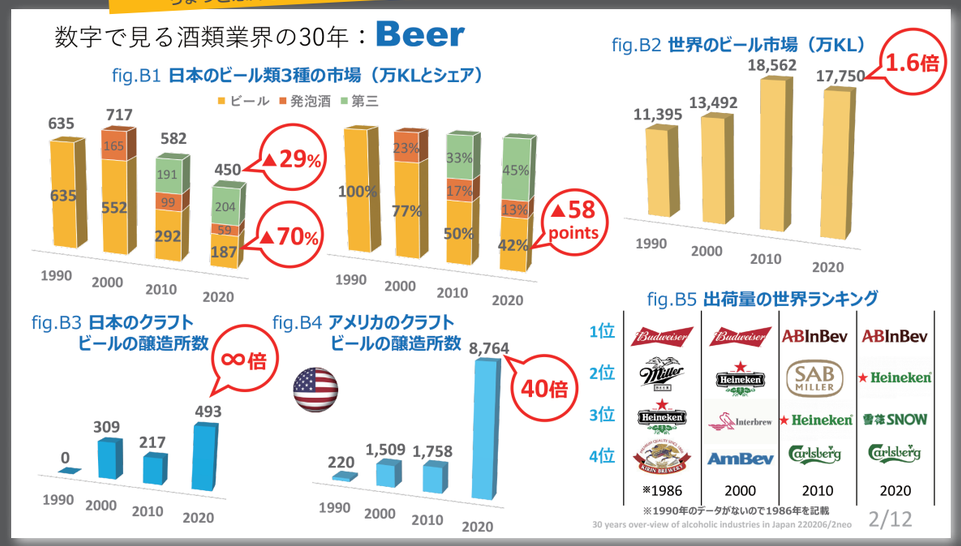
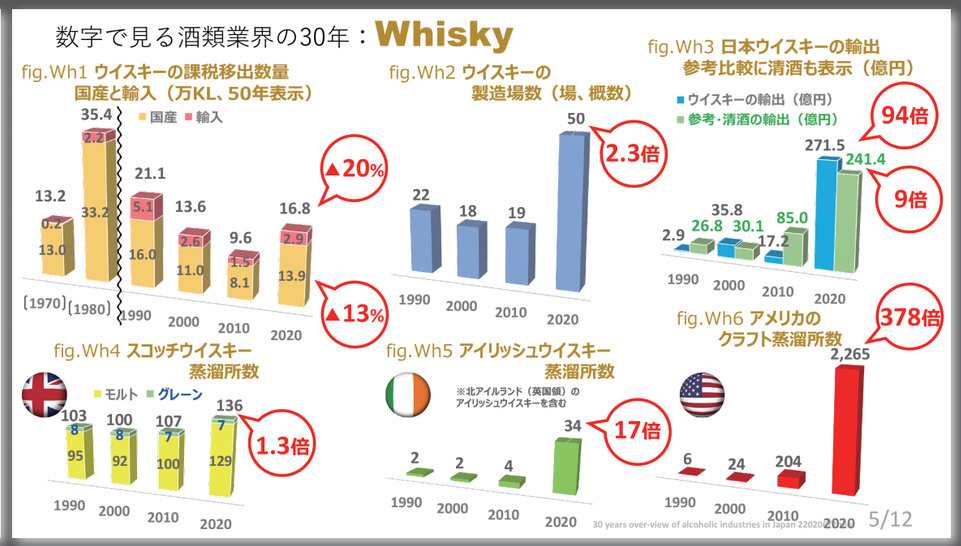
お酒 STATISTICS（オサケ スタティスティックス）

ちょっと意外な、お酒の統計情報紹介

ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料でご紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

今回は、「数字で見る酒類業界の 30 年・ビジュアル版」です。





昨年 5 月から 12 月に、きた産業メルマガで「酒類業界の 30 年を振り返る」という文章を連載しました。「10 年刻みの数字」で変化を観察したものですが、その数字を主要 5 酒類についてグラフ化しました。赤の吹き出し の中は 30 年の変化量です。

＜ビール＞ 日本のビール産業の 30 年間の 3 大エポックは：① 1994 年：サントリーが「発泡酒・ホップス」を発売、② 2004 年：サッポロが「第三のビール・ドラフトワン」を発売、③ 2009 年：キリンが「0.00・ノンアルコール」を発売、だと思います。

税法上のビールは、30 年で 70%減り、ビール類中のシェアは半分以下になりました。コモディティー商品は「正の価格弾力性」であるのが普通ですが、お酒には「負の価格弾力性」があるように見えます。確かに「価格の安いもの（発泡酒・第三）」は増えるのですが、「全体（ビール類の総量）」を減らす、という意味で「負の価格弾力性」があると言えます。

戦後から 2010 年ころまで、世界のビール総量は世界の人口増もあって 60 年以上一貫して伸びましたが、2010 年以降の 10 年間は 1 億 9,000 万 KL 前後で足踏みし、2020 年はコロナで大幅減となりました。「ビールには規模の経済がある」という観念にドライブされて、2010 年代まで世界の大手ビール企業は合従連衡を繰り返しましたが、今や規模の経済は成り立たなくなりました。大手はノン＆ローアルコールとクラフトに注目した戦略を立てています。

＜日本酒・サケ＞ 30 年前は「普通酒」が 90%以上でしたが、今は「純米・吟醸・本醸造」：「普通酒」＝ 45：55。精米歩合は 80%弱でしたが、今は平均が 63-64%。「びん燗殺菌」も多くが採用。清酒の品質は大きく改善しました。にもかかわらず、生産量は 69%減り、蔵元の数は 36%減となっています。加えて、焼酎の Sh3 に示すように、小売物価統計の清酒価格は 30 年で 33%も安くなっています。今や清酒の過半は紙パック入り経済酒です。

輸出は 30 年で、量で 3.2 倍、金額で 8.9 倍、したがって平均単価は 3 倍となりました。2020 年の清酒輸出 12.1 万石は、世界のサケ需要約 40 万石の 3 割ほどで、残り 7 割は海外のサケ生産者によるものです。現在、海外のサケ生産者は 65 社。30 年で 6.5 倍に増えています。「Sake」は今や世界中の人に通じる言葉になりました。

＜ワイン＞ ワイン生産者数は特に 2010 年以降に増えて、30 年で 2.6 倍の 380 に達しています。総数が増えた 2 大要因は、長野と北海道。人的要素や行政要素もありますが、「温暖化」が最も大きいと考えます。

この 30 年の日本のワイン技術・品質の進歩は、他の酒類に比べて最も大きかったのではないでしょうか。日本独自の開発や進化もありましたが、世界のワイン技術がこの間に大きく進歩し、それを取り入れたことが大きいと思います。

シャンパーニュ・スタイルのスパークリングワインを造るのは 30 年前、日本でタケダワイナリーと池田町の 2 社でしたが、今では 65 社程度まで増えました。

＜ウイスキー＞ 30 年前に比べて国産ウイスキーは 13％減とはいえ、2020 年は増加局面にあります。清酒、ビール、焼酎などはピーク後に減少を継続していますが、ウイスキーは戦後初めて、唯一、増加に反転した酒類です。

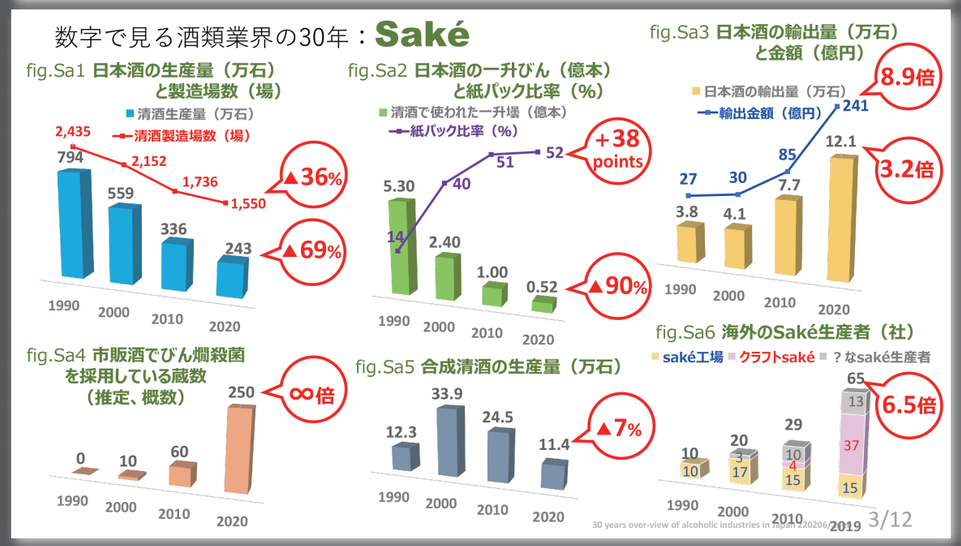
日本ウイスキーは海外で極めて高評価で、輸出金額で日本酒を追い越しました。製造場も急激に増えていますが、ウイスキーは世界的なブームで、スコッチ、アイリッシュでも増えています。アメリカのクラフト蒸留所は 378 倍と驚異的な増加で、クラフトビールの 40 倍を大きく凌駕しています。

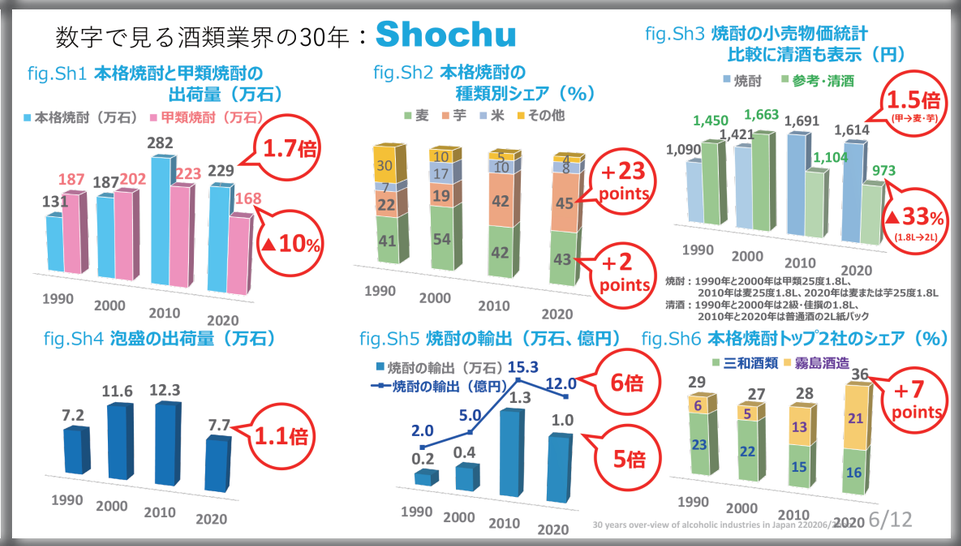
＜焼酎＞本格焼酎・甲類焼酎とも、2010 年をピークにして 2020 年は減少局面にあります。本格焼酎の原料は、30 年で麦と芋の 2 強になり、それぞれのトップ企業のシェアが 2 社で 36%まで高まりました。

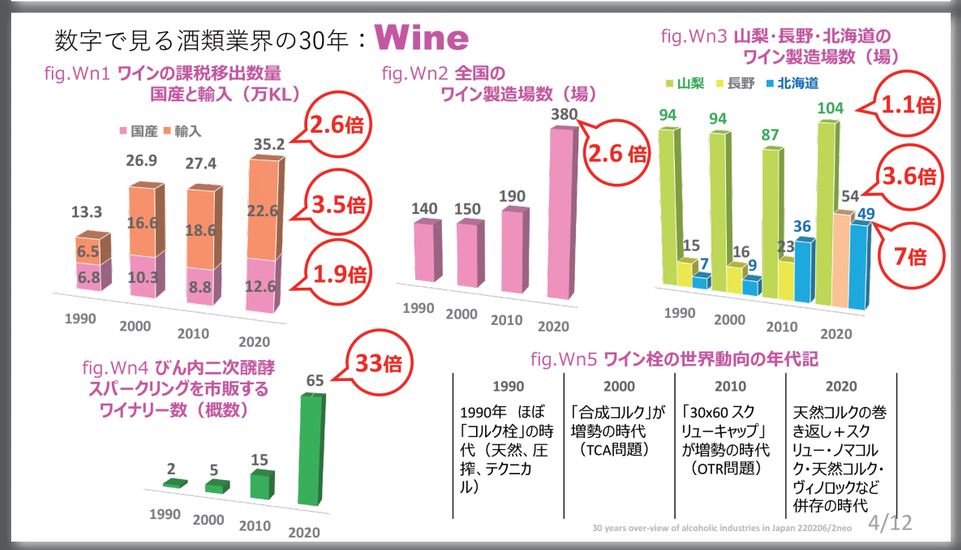
小売統計を見ると国内価格は清酒よりはるかに高く維持されているのは好材料ですが、輸出が振るわない状況です。ただ、様々なプロモーションが行われているので、2030 年にかけて焼酎の輸出は伸びると考えます。

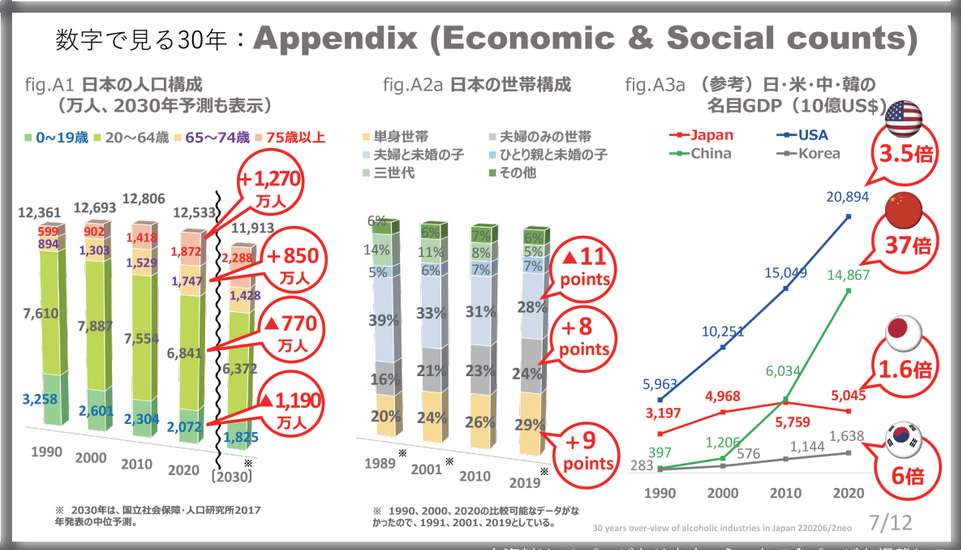
＜社会・経済指標＞ 30 年前と今を比べると、総人口はそれほど変わらないなかで、64 歳以下が約 2,000 万人減少、65 歳以上が約 2,000 万人増加と、急激な高齢化を遂げました。

30 年前、日本はアメリカに次ぐ世界 2 位の経済大国でしたが、今は様変わりです。中国は 30 年前には貧しい国でしたが、2010 年に GDP で日本を追い抜き、今や日本酒、日本ウイスキー、焼酎などの輸出先で金額 1 位になっています。韓国もしかりで、2019 年からの日本製品不買があるものの、日本の酒類にとって欠かせない市場になっています。 (text = t.kita)









本資料は 12 ページあります。ネットで全ページを掲載しています。 https://kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/30years.pdf